

うまいちとら新聞

村の夏の はじまり。

令和3年夏
発行
馬路村農協

[illegible]

青オニ
ゆずこしょうチューブ
72g 650円

夏の
お供に

香りよい青ゆずと青とんがらしを粗めにすりつぶし、塩と合わせた万能調味料。マヨネーズと和えると野菜のピリ辛ディップソースに。

ピーヒョロロ
河原の空に
夏を呼び込む

今日の
おすそわけ



若鮎の
ひいとい干し

以前と比べると外食をする頻度はかなり減り、食卓をいかに充実させるかを考える日々ですが、ちよつと困つたぞ、という時にちよつどおすわけをもらえるのは村の有難いところ。若鮎を捌き干した「ひいとい(二日干し)」は七輪で炙ると、ごはんでもお酒でもイケる最高のおかずとなり、おすそわけで充実どころか贅沢な食卓に変貌します。鮎の季節の到来を喜ぶのは鮎釣り好きのおんちゃんだけでなく、おすそわけを待ち望む我々なのです。

村のみんなが
知っている
村ニュース

ゆるすも
やるとねー



50歳を目前に
村に移住してき
てくれた石橋さ

ん。農協で働く傍ら、田んぼなど農作業にも汗をかき、すっかり村に馴染んでおります。今年からはゆのす（ゆず畑）と唐辛子をはじめ、聞きつけた近所のおんちゃん達に世話を焼いてもらいながら、楽しんでおるようです。

唯一の悩みは、畑や田んぼが忙し過ぎ、ウナギをおさえに川にいく暇がないこと。

編集後記



の伸び」というものを街に住んでいた頃は、ほとんどしていなかった。というよりも意識をする必要がな
と思う。村に住みはじめてから、村人たちの雑草に
対する意識の高さにまず驚いた。村の中を取材中
にも村の至る所から草刈り機の音が聞こえ、道端
で立ち話をしながらでも目についた草を喋りなが
らひいていく。村のDNAともいえるべき共通した
美意識に、街から移り住む人も自然と背筋が伸び
草刈り機と向き合う日々が続く、この季節だ。

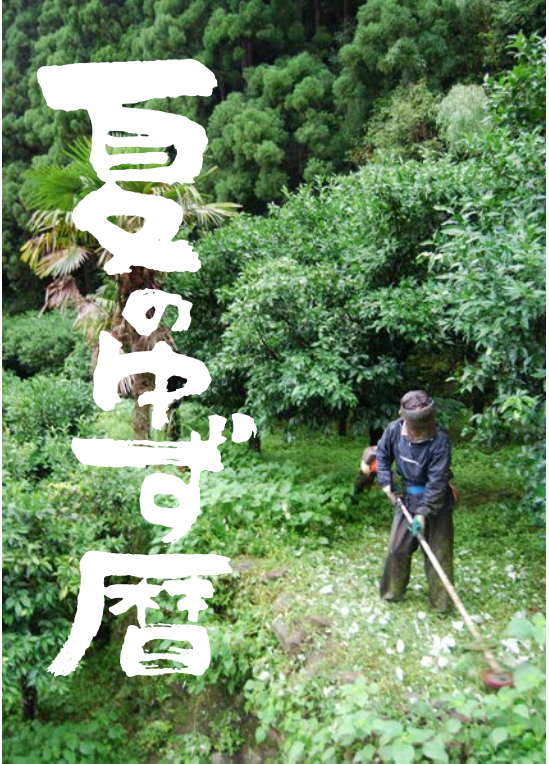
うまい ぶり
馬路村の道
高年0キロから室戸方面に約51km 国道55号
線を太平洋沿いに進むと安田町へ入る。
そして左に大きい魚が見えてきた。左へ曲がり、
安田川に沿ってよくわき上る。
県道12号線を進むと、20km 約30分。
うまい ぶり馬路村に着きます。

ブログ
日々馬路村
インターネットに
おそびにきてしま
ホームページ www.yuzu.or.jp

馬路溫泉

ツルツルのお湯です。
ゆっくりすごしにまませんか。

0120-44-2026



夏のゆず暦

5月



5月に入ると枝の先に白くぷつくりとした花の蕾が、つき始め、そのつき具合により、凡そ今年のゆずの収穫量もわかります。いうならば昨年の収穫終わりから半年間の黙々とした世話が実を結んだ瞬間でもあり、その可愛らしさだけではなく、嬉しさも噛みしめ畑を見回ります。

6月



花が散ると、小さな青ゆずがちよこんと実をつけ、瞬く間に大きくなっていき、さすが、「一次生理落下」の時期を迎えます。すべての実へ養分をおくることとなり、とゆずの木は大変疲れてしましますので、木自身が選別し、実を落としていくのです。自然の逞しさを落した青ゆずに感じます。

7月

「二次生理落下」の時期となり、ゆず玉は二回目の選抜を迎えることとなります。この時期、草を刈っている、落下した青ゆずも草刈り機にかかり、なんとも爽やかな香りが広がることも。ゆず作業のふとした癒しの香りです。



雑草との格闘の日々。馬路村ゆず栽培は除草剤の使用が認められておりませんので、汗を流しながら草刈り機での地道な作業が続きます。たまに早く切り上げて、晩酌をはじめるのがこの季節を乗り切るコツです。

9月



10月終わりからの黄玉の収穫に向けて、実の発育の最盛期となります。適度な日差しと雨がこの時期の成長を支えるため、天候が気がかりとなり、空を眺めることも多くなってきました。日照りが続くと水をやり、我が子のように日ごとの成長を助けていきます。そうして9月中旬、実が十分に大きくなった頃、青玉の収穫がはじまります。青玉青果としての出荷分とゆずこししょう用の原料に必要な分だけなので、少しだけではありますが、村の中が一時青ゆずモードとなり、畑からはパチンパチンとハサミの音が響きます。



夏のゆず畑 こぼれ話



夏は「涼をとる」という言葉がある通り、暑さを感じる一方で涼しさを感じることもできる季節でもあります。草刈りなど夏の畑仕事の合間には、ゆずの木陰で一休み。畑をぬける風の涼しさは何よりも心地よいと、なかなか腰が上がるなくなる人もいれば、午前中は頑張っ畑、昼からは鮎かけて川に足を運び、涼をとる人もいます。暑さだけを口にせず、前向きに村らしい涼のとおり方を楽しみ、夏のゆず畑と上手向き合っているような気がします。

とびきりおいしい、おうちで楽しむ、ゆずの収穫量。



時を少しさかのぼり、今年の一月、太平洋沿いのベルガモット畑は一面高貴な香りに包まれておりました。農協のゆずの森研究室におり、沢村さんがイタリア・カラブリア州からベルガモットの苗を受け取ったのが今から十年前。それから検疫所で二年間ほどの検査を受け、馬路村にやってきましたが村の気候ではなかなか育ちにいく、太平洋沿いの良い畑を探し



ベルガモット
エッセンシャルオイル
5mL 2,500円

に探し、長い年月を経てようやく実をつけることとなりました。ゆずの村の新しい物語が、また少しはじまっています。

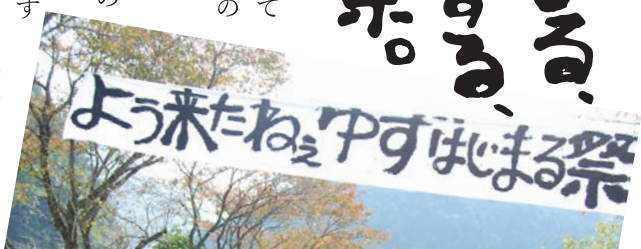
今年はどうじやろ。



「昨日はね、5つも入っちゃった」と、聞かずとも教えてくれるウナギ漁師。漁師といっても趣味でやっている程度、村の遊びのひとつです。鮎やウナギの量は環境の変化を映すひとつの鏡でもあり、「今年はなあ、」と一喜一憂する様を見ると、遊びを通して、何かを訴えかけられているようにも思えます。「持続可能」の考え方は、自然と遊ぶ村では当たり前前の考え方なのかもしれません。



とびきりおいしい、おうちで楽しむ、ゆずの収穫量。



おーのかからん。

「草刈り機の大仕事である、草刈り機のもとには毎日、おんちゃんトくんのもとには毎日、おんちゃんに「一番必要な道具だと知ってるからこそ、文句を言うわけでもなく、かからなあ」と頭を悩まし、時には一日がかりで直します。返すときに「おんちゃん、よかったね。」と肩をたたく光景は夏の「コマ。

修理屋ではなく、あくまでAコープなので、修理代をもらっているわけではありませんが、壊れたらここに持ち込むのが、いつからか決まった村のルール。夏の畑



農協が発行しているカレンダーの10月31日には、しっかりと「ゆずはじまる祭」の予定が書き込んであります。ゆずはじまる祭は、ゆず収穫始めに毎年おこなっている馬路村の大イベント。昨年はやむなく中止となり、今年こそはとカレンダーにも予定を入れておりますが、日々変わるコロナウイルスの状況を見ながら、「どーなる、どーする」と村の中でも議論が繰り広げられております。街の人に日頃の感謝を伝える重要なお祭り。皆開催したい気持ちではおりますが、十分な対策や人手など、小さな村での山積み課題と向き合う日々。なんにせよ決まりましたら、農協HPなどで案内を致します。はやく「よう来たねえ」と喜んで迎えられる日を待たばかりです。